

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																	
Y I C 京都ペット総合専門学校		平成25年3月25日		村田 忠男		〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町2 7 番地 (電話) 075-371-4044																	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																	
学校法人京都中央学院		平成19年1月22日		井本 浩二		〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町2 7 番地 (電話) 075-371-4040																	
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																	
商業実務	商業実務専門課程	動物看護科			平成27年 文部科学省告示第13号	-																	
学科の目的 専門知識・技術を教授するだけでなく、技術教育を通じての人間教育を行うことにより、良識ある社会人として必要な資質を養い、地域社会の発展に貢献できる心豊かなペット業界のスペシャリストの養成を目的とする(教育理念)。具体的には、即戦力ではなく、変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、変わらずに人を癒すことのできる資質を備え、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物を育てる。 動物看護科においては、動物病院で必要とされる実践的かつ専門的な技術・知識だけでなく、人と動物の共生社会の実現のために正しい知識と高い倫理観を持つ人材を育成する。さらに、職業人としての使命感を持って、利他の精神で働くことに社会的意義を感じられる人間力を育成することにも注力し、将来動物看護業界の指導的立場やリーダーとなる人材の育成を目的とする。																							
認定年月日	平成27年2月25日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技															
	2年	昼間	77	53	0	29	0	0															
単位																							
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数													
80人		83人		0人		3人		32人		35人													
学期制度	■前期: 4月1日 ~ 9月30日 ■後期: 10月1日 ~ 3月31日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率80%以上、ペーパーテスト及び実技 成績: 秀(100-90) 優(89-80) 良(79-70) 可(69-60) 不可(0-59)																
長期休み	■学年始: 4月1日 ~ 4月6日 ■夏季: 7月24日 ~ 8月31日 ■冬季: 12月23日 ~ 1月10日 ■学年末: 3月10日 ~ 3月31日				卒業・進級条件		卒業の要件: 必須科目77単位(2,280時間)以上の履修 科目履修(単位)認定の要件: 80%以上の出席 および 期末試験60点以上を基本とするが、科目により実技試験、あるいはレポートに換える場合もある 学費及び教材費等の完納																
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への連絡を密にし、本人との面談や場合によっては保護者を含めた面談を行い、状況把握と指導を行う。都度指導記録を残す。				課外活動		■課外活動の種類 学園祭実行委員、京専各体育大会等への参加(バレーボール、卓球等) ボランティア活動(地域清掃、献血、留学生交流)、部活動、同好会活動、オープンキャンパスボランティアスタッフ ■サークル活動: 有																
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 動物病院 ■就職指導内容 キャリアサポート室は、学生の皆さんのこれらの支援を進めるための中心的な役割を担っています。学生の皆さんが、最適な就職ができるように個別相談、各種情報の提供、会社説明会やガイダンス・セミナーを行っています。				主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)																
	■卒業生数: 24人 ■就職希望者数: 24人 ■就職者数: 23人 ■就職率: 96% ■卒業者に占める就職者の割合: 96% ■その他 ・進路未定者数: 1人 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)						<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>統一認定動物看護師</td> <td>③</td> <td>24人</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士1級</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士2級</td> <td>③</td> <td>40人</td> <td>35人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	統一認定動物看護師	③	24人	24人	愛玩動物飼養管理士1級	③	22人	22人	愛玩動物飼養管理士2級
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
統一認定動物看護師	③	24人	24人																				
愛玩動物飼養管理士1級	③	22人	22人																				
愛玩動物飼養管理士2級	③	40人	35人																				
中途退学の現状	■中途退学者 3名 令和2年4月1日時点において、在学者68名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者65名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学習意欲の低下、体調不良、進路変更大学進学、金銭的な問題				■中退率 4%		■自由記述欄																
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待奨学金制度(一般常識、面接、書類審査によりSABランクの特待生を選抜) 初年度学費よりS:学費20万円免除、A:10万円免除、B:5万円免除 ・ファミリーサポート制度(YICグループ校の在学生または卒業生に親、子、兄弟姉妹がいる者に対し初年度学費より5万円免除) ・ひとり暮らしサポート制度(通学困難者で下宿をせざるを得ない者に対し毎月5千円補助) ・就学支援制度(大学・短大・専門学校卒業&見込生、社会人経験3年以上であり、本校に入学を希望する者に対し、初年度学費より10万円を免除) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 前年度実績: 1名																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																						
当該学科のホームページURL	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/																						

※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。
 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
 ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
 ③その他(民間検定等)

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・教育課程編成委員会において、学校の方針・編成に対する企業等による意見・提案をいただき、教育課程の編成をより商業実践的にすべく内容改変あるいは新規導入等の可否を検討する。さらに、企業等による連携授業・教職員の技術研修、学生の実務研修、就職指導等の協力・実施計画等併せて討議する。これらの結果は、基本的には次年度の教育課程編成に適用する。
- ・編成委員会の意見・要請は教育課程の編成に十分生かすものの、最終的には学校の教育理念に沿ったものであることを前提に、編成した教育課程は最終的に校長認可の上実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。
- ・学校運営から独立した機関であり、理事会直結の諮問機関とする。
- ・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。必要に応じ当該関係者の意見を聴取することもある。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
柴山 隆史	公益社団法人滋賀県獣医師会	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	①
森 尚志	公益社団法人京都市獣医師会	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	①
西躰 恭子	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロック協議会	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	①
田川 直樹	株式会社ひごペットフレンドリー 取締役人事部長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	③
塚本 清司	株式会社Lovely 代表取締役	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	③
村田 忠男	Y I C 京都ペット総合専門学校 校長		
飛田 隆	Y I C 京都ペット総合専門学校 教務課長		
澤 智春	Y I C 京都ペット総合専門学校 総合支援課長		
山根 大助	Y I C 京都ペット総合専門学校 内部監査・IR戦略室長		
細田 元一	学校法人京都中央学院 本部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (5月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年5月14日 15:00～17:00

第2回 令和3年11月中旬～下旬(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

1. 院内実習の運営→ 受入れる病院の事情を把握する評価基準や指導方法等、事前のすり合わせを密にするよう取り組む。
2. 基礎学力、スキル向上について（計算、文章、ITスキル、語学）の向上
→ 「入学前教育プログラム」「基礎力リサーチ」（進研アド）導入/リメディアル教育教材を有効に活用する。
3. コミュニケーション力の教育
・学習環境改善 → コミュニケーションを育むための環境の整備、（放課後活動等）学生主体のイベント企画の場を提供。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等が求める職業実践的な人材像と学校が送り出す人材像とのギャップを埋め、卒業生の質を保証し本校の教育理念を果たすために企業等との連携は必須である。ギャップは社会の変化、技術進歩に学校が追い付いていないところにあると考える。企業等との連携により、教職員の教育研修に注力するとともに、企業等による連携授業、業界研究（インターンシップ）等積極的に行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・企業等と協定書を締結し、連携授業として動物病理学、動物感染症学等の授業や、校外（動物病院等）での動物臨床検査学実習等を行っている。学習内容、評価などは期初に当該企業等との打ち合わせにより決定したシラバスに沿って行っている。
- ・インターンシップは学校とインターン生受け入れ企業と個別に覚書を結び、学生のレポート⇒企業側のコメント⇒学校のコメント・評価⇒学生へのフィードバックにより学修成果を評価し、その結果を企業に報告することにより、科目の成果、改善・改革を図っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
動物看護総合実習 I II III (理解・体験・実務型実習)	動物病院の概要を理解する。 動物病院内での動物看護師の実際の業務や獣医師・動物看護師との連携を理解する。	京都市獣医師会会員動物病院ほか 近畿圏内の動物病院
動物人間関係学	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的および社会的側面から理解する。	アニマルサポートオフィス・ミーチョ 代表 阿部 令子
動物臨床看護学各論 I II	様々な疾患の病態整理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。	アニマルサポートオフィス・ミーチョ 代表 阿部 令子
動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	さわべ動物病院 院長 澤辺 幸紀
動物感染症学 I II III	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を修得する。	さわべ動物病院 院長 澤辺 幸紀

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にやっていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

・学生・保護者・地域社会（企業）に対して本校の卒業生の質を担保するためには、教職員の教育力の向上が必須である。「学校法人京都中央学院教職員研修規程研修等」に基づき、研修等には①担当分野の実務、②インストラクショナルスキル、③学生指導・就職指導、④学校運営 についての研修を計画的に行う。教育研修は、学校関係者すべてに関わるものであり、自己啓発を含め積極的に支援する。年度研修は研修計画に沿って行い、スポット研修は随時行う。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「第1回 愛玩動物看護師カリキュラム等検討会」（連携企業等：愛玩動物看護師カリキュラム等検討会）

期間：令和2年8月24日（月） 対象：動物看護科
内容：1 開会 2 あいさつ 3 構成員の紹介 4 配付資料の確認
5 議事

- (1) 検討会について
- (2) 検討会における具体的な検討事項の案について
- (3) 今後の検討の進め方の案について
- (4) その他

6 閉会

<p>研修名「第2回 愛玩動物看護師カリキュラム等検討会」（連携企業等：愛玩動物看護師カリキュラム等検討会） 期間：令和2年9月28日（月） 対象：動物看護科 内容：1 開会 2 配付資料の確認 3 議事 （1）ワーキングチームの設置について （2）愛玩動物看護師に求められる役割、知識及び技能について （3）その他 4 閉会</p>
<p>研修名「第3回 愛玩動物看護師カリキュラム等検討会」（連携企業等：愛玩動物看護師カリキュラム等検討会） 期間：令和2年10月19日（月） 対象：動物看護科 内容：1 開会 2 議事 （1）愛玩動物看護師のカリキュラム等に関する基本的な考え方について （2）法第2条第1項の「その他政令で定める動物」について （3）その他 3 閉会</p>
<p>研修名「第4回 愛玩動物看護師カリキュラム等検討会」（連携企業等：愛玩動物看護師カリキュラム等検討会） 期間：令和2年12月14日（月） 対象：動物看護科 内容：1 開会 2 議事 （1）受験資格の特例について （2）現任者の範囲について （3）実務経験の換算・証明方法等について （4）その他 3 閉会</p>
<p>研修名「第5回 愛玩動物看護師カリキュラム等検討会」（連携企業等：愛玩動物看護師カリキュラム等検討会） 期間：令和3年3月22日（月） 対象：動物看護科 内容：1 開会 2 議事 （1）検討会報告書（案）について （2）その他 3 閉会</p>
<p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>研修名「新任教員研修」（連携企業等：京都府専修学校各種学校協会/一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団） 期間：令和2年10月10日（土）、24日（土）、11月14日（土） 対象：教員 内容：10/10 学生教職員のための実践心理①② 京都栄養医療専門学校 講師 小松仁美先生 校長 影山弘典先生 10/24 専修学校における職業教育 大阪成蹊大学 教授 東出加奈子先生 11/14 学生教職員のための実践心理③ 同支社大学 講師 梁 陽日先生 総合自由科目 大原簿記ビジネス公務員専門学校京都校 専任講師 尾崎尚嗣先生</p>
<p>(3)研修等の計画</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修名「WJVF ONLINE 2021 第12回大会」（連携企業等：一般社団法人 日本臨床獣医学フォーラム（JBVP）、公益社団法人 日本動物病院協会（JAHA）） 期間：令和3年7月9日（金）～8月15日（日） 対象：獣医師、動物看護師、トリマー、学生 内容：動物看護師向け講義多数あり</p>
<p>研修名「動物専門職のための人と動物の関係学」（連携企業等：一般社団法人全国動物専門学校協会） 期間：令和3年8月27日（金） 対象：ペット分野、動物分野の専門学校教員 内容：愛玩動物看護師が国家資格となり、そのカリキュラム内容が公表された。直接的な獣医療技術とは別に、社会と動物の関わりやそこに生じる多頭飼育崩壊等の問題もその中に含まれる。動物愛護管理法も改正され、動物飼育の適正化や動物取扱業の最善化が図られていることから、動物に関する全分野（全学科）の教員に必要な内容である。国際ペットワールド専門学校で、この課題に関する基礎的な知識を提供する講義を20年間実践してきた。その内容と効果を開設する。</p>

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「愛護・適正飼養学の授業運営セミナー（オンライン）」（連携企業等：公益社団法人日本愛玩動物協会）
 期間：令和3年8月5日（木） 対象：教員
 内容：「愛玩・適正飼養学」の概要や授業実施に当たってのポイントを解説

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1 教育理念・教育目標
(2)学校運営	2 学校運営、3 教育活動、9 財務
(3)教育活動	3 教育活動、8 教育の内部質保証システム
(4)学修成果	4 学習成果、8 教育の内部質保証システム
(5)学生支援	5 学生支援
(6)教育環境	6 教育環境
(7)学生の受入れ募集	7 学生の受入れ募集
(8)財務	9 財務
(9)法令等の遵守	2 学校運営、8 教育の内部質保証システム、9 財務
(10)社会貢献・地域貢献	10 社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	11 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

- 「授業の質の改善」を行うために、専任教員及び非常勤講師のスキルアップが必要。改善策として非常勤講師の先生方との定期的な打合せと、5月及び10月を『授業見学月間』として実施、また、年間を通して授業参観を実施する。
- コミュニケーション力が向上しない環境の印象がある→オープンキャンパスの学生スタッフなど学びの機会を増やしていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
柴山 隆史	公益社団法人滋賀県獣医師会	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	業界団体
森 尚志	公益社団法人京都市獣医師会	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	業界団体
西舩 恭子	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロック協議会	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	業界団体
田川 直樹	株式会社ひごペットフレンドリー 取締役人事部長	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	業界企業
塚本 清司	株式会社Lovely 代表取締役	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	業界企業
丸山 帆夏	ダクタリ動物病院 京都医療センター	令和3年4月1日 ～令和5年3月31日 (2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL: <https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和3年6月25日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育目標
(2) 各学科等の教育	学科紹介、学科別教育課程、各学科科目別シラバス、卒業要件、
(3) 教職員	教員数、学校組織一覧、
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、教育課程編成委員会
(5) 様々な教育活動・教育環境	企業連携授業
(6) 学生の生活支援	ひとり暮らしサポート制度、奨学金窓口の設置、個別相談窓口設
(7) 学生納付金・修学支援	修学支援新制度、財務報告
(8) 学校の財務	財務報告
(9) 学校評価	自己点検・評価結果の公表、学校関係者評価委員会
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/disclosure/>

25	○		動物臨床看護学各論Ⅰ	様々な疾患の病態整理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。 各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を修得する。	2・前	60	2	○			○			○	○
26	○		動物臨床看護学各論Ⅱ	様々な疾患の病態整理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。 各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を修得する。	2・後	60	2	○			○			○	○
27	○		動物臨床栄養学Ⅰ	5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。	1・前	30	1	○			○		○		
28	○		動物臨床栄養学Ⅱ	5大栄養素やその代謝などの基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。	2・前	30	1	○			○		○		
29	○		動物臨床検査学Ⅰ	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。	1・前	30	1	○			○			○	
30	○		動物臨床検査学Ⅱ	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を習得する。	1・後	30	1	○			○			○	
31	○		動物医療コミュニケーション	日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ。	1・後	30	1	○			○		○		
32	○		動物形態機能学実習Ⅰ	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	1・後	30	1				○	○			○
33	○		動物形態機能学実習Ⅱ	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	2・前	15	1				○	○			○
34	○		産業動物学実習	産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業など社会との関わりについて学ぶ	2・前	15	1				○	○			○
35	○		動物内科看護学実習Ⅰ	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	1・後	30	1				○	○			○
36	○		動物内科看護学実習Ⅱ	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2・前	60	2				○	○			○
37	○		動物臨床検査学実習Ⅰ	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。	1・後	30	1				○	○			○

50	○		ボランティア活動Ⅱ	京都動物愛護センターが実施している子猫の「一時預りボランティア」に授業として参画し、今まで学んできた動物看護の知識を用いて、その子猫のために何ができるかを考え、実践することで社会貢献に寄与する。	2・前	30	1				○	○	○	○
51	○		損害保険学	ペット保険及び損害保険募集人に関連する内容を覚える。 アニコム損害保険の合格レベル、知識を覚える。	1・前	15	1				○	○		○
52	○		基本IT技術Ⅰ	パワーポイントを使用したスライド作成	1・前	30	1				○	○		○
53	○		基本IT技術Ⅱ	コンピュータを利用した事務作業やビジネスに必要な文書の作成や表計算について学習。 必要な技術を効率良く行えるよう繰り返し練習する。	1・後	60	2				○	○		○
54	○		イベントプロデュース	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力を付ける。 イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。	1・後	15	1				○	○	○	○
55	○		社会常識	社会常識について学ぶ。日々の対人関係を円滑にするための基本的スキルの習得。文書読解・作成能力検定3級合格のために必要な知識の習得。	2・後	30	1				○	○	○	○
56	○		ビジネス文章力Ⅰ	硬筆検定4級取得を目指した授業。文字を書くという私たちの日常生活での最も基本的な教養を身につける。	2・前	30	1				○	○	○	○
57	○		コミュニケーション学	社会常識について学ぶ。日々の対人関係を円滑にするための基本的スキルの習得。サービス接遇検定合格のために必要な知識の習得。	2・前	30	1	○			○	○		○
58	○		プレゼンテーション学	社会人に必要なプレゼンテーション能力。 この授業ではビジネスにおけるプレゼンテーションの考え方や心理学的、実践的なプレゼンテーションテクニックを学び、動物看護師としてその知識・技術を活用できるようになることを目標とする。	1・前	30	1	○			○			○
59	○		フィットネス	近年、若者の体力・運動能力が低下傾向にある。その結果として肥満や高血圧・高脂血症などの将来の生活習慣病につながるおそれがあり、また運動不足によって豊かな人間性や創造力・主体性といった社会人に必要な能力の低下等、様々な問題があると文部科学省も危惧している。 この授業では基礎体力の向上や今までに経験した事のないニュースポーツを通して、運動の重要性を伝え、学生たちの『運動の習慣化』を計る。	1・後	30	1				○	○		○
60	○		動物飼育実習Ⅰ	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。	1・後	30	1				○	○		○

61	○		動物飼育実習Ⅱ	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。	2・前	30	1			○	○	○		
62	○		動物飼育実習Ⅲ	適正飼育法及び動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につけ、正常と異常を鑑別しながら、小動物の飼育が行えるようになる。	2・後	30	1			○	○	○		
63	○		動物内科看護学実習Ⅲ	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2・後	60	2			○			○	
64	○		統一試験対策Ⅰ	動物看護師統一認定試験に合格するための勉強ができるようになる。	2・前	30	1			○	○	○		
65	○		統一試験対策Ⅱ	動物看護師統一認定試験に合格するための勉強ができるようになる。	2・後	30	1			○	○	○		
66		○	アニマルヘルパー	独立開業を目指す場合やトリマー、ドッグトレーナー、ペットショップ、ペットホテルなどの職業に就いても必要となる訪問サービスを学び身につける。	1 2・前	60	2	○		○	△		○	
67		○	ビジネス文章力Ⅱ	硬筆検定3級取得を目指した授業。文字を書くという私たちの日常生活での最も基本的な教養を身につける。	2・後	30	1			○	○		○	
68		○	日本文化	季節の花を生け、生きてる花の表情を捉え、花の命の奥深さを学ぶ。伝統芸術に触れ感性を磨き、自己を知る。 いけ花の実践、芸術表現、花の色彩、伝統行事、京の祭の花	2・前	60	2			○	○		○	
合計				68科目	2430単位時間(82単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	必修科目76単位(2,280時間)以上の履修 履修方法:ペーパーテスト、レポート、実技テストによる評価	1学年の学期区分
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。